

Lien+
宮澤宏
代表



☎ 080-1234-4450
✉ coco20091229@gmail.com
🏠 茨城県土浦市荒川沖西2-16-7

ビジョン

キレイになることで、心が前を向く社会をつくる。
外出が難しくなっても髪を整えることで笑顔が生まれます。
その笑顔はご本人だけでなく、ご家族や介護スタッフの方々にも元気を届けてくれます。
美容を「生きる力を引き出すケア」と考え、地域の中で心の健康を支える存在を目指しています。

つくば市・土浦市・柏市・野田市エリアで訪問美容を展開する「Lien+」。高齢者施設や在宅療養中の方々など、外出が難しい方にも“いつもの笑顔”を届けるため、カット・カラー・パーマなどの美容サービスを自宅や施設で提供しています。宮澤代表のこれまでの歩みや訪問理美容を始めたきっかけ、そして地域に根ざした活動の想いを詳しく紹介します。

高校卒業後からつくば市・土浦市で美容師を志すまでの歩み

高校卒業後に美容師を目指したのですか？

高校を卒業してすぐに美容師を目指したというわけではなく、印刷機械システムを手掛ける「小森コーポレーション」という大手企業に就職し、機械の製作や組み立てを担う部門に配属されました。

工場内での仕事は精密さが求められ、技術を磨くやりがいも感じていましたが、もともと自分の意志で選んだ進路ではなく、父の紹介によって入社した経緯があったため、仕事を続けるうちに「本当に自分がやりたいことは何だろう」と考えるようになりました。

また、機械の製作に携わる中で、黙々と作業を進める時間が多く、人と関わる機会が少ないことに少し物足りなさも感じていました。

「もっと人と接する仕事がしたい」という思いが次第に強くなっていく中、「東京で営業職に挑戦してみたい」という気持ちが芽生え、入社から3年で退職を決意しました。



退職後は東京で営業職に就かれたのですか？

営業職はまったくの未経験でしたが、上京後に「有限会社RJ」へ入社し、テナント内で健康食品や健康器具を販売する営業職として働き始めました。

さまざまなメーカーの商品を扱う仕事で、商品知識を身につけるために各メーカーの社長や営業担当の方から直接説明を受ける機会が多くあり、20代から50代まで幅広い年齢層の方々と出会い、仕事を通じて多くのご縁に恵まれたのは大きな財産です。

当時は、自社開発した商品の宣伝や販路拡大に苦戦し、営業代行を依頼している企業も多く見られ、そうした現場に身を置くことで、社会の仕組みや企業経営の仕方、マーケティングの考え方などを学ぶことができ、視野が一気に広がりました。



努力の成果が数字として現れる営業職のやりがいを感じる一方で、「自分で事業を起こした方が向いているのでは?」「起業してみると面白いかもしれない」といった言葉を周囲からかけられることもあり、周囲からの言葉をきっかけに、「人に何かを教えたり、価値を届けたりする仕事は楽しいのかもしれない」と思うようになり、そのような折に、化粧品や美容家電を製作しているメーカーの社長との出会いがありました。

その方はもともと資生堂の研究員として勤務していたそうで、独立後は自社製品を自分が経営する美容室に卸し、そこで得たデータをもとに改良を重ねていました。

自社内でPDCAを回しながら事業を成長させていく姿勢に強く感銘を受け、「資格を持つことで、仕事の幅を広げられるのだ」と気づかされました。

営業職として学べることも多く、やりがいを感じていましたが、その出会いを通じて「自分も手に職をつけ、将来的には独立してみたい」という思いが次第に強くなっていき、2年ほど勤務したのち、美容師の資格を取得するために退職を決意しました。

営業職から美容師の道へ

美容師はどのように目指したのですか？

東京での営業職を退職した後、地元の茨城に戻り、美容師になるため通信制の美容学校に通うことを決めましたが、3年間学生として過ごすとなると、生活費や学費の面で不安があり、「働きながら学べる環境で美容師を目指したい」と考えていました。

そんなとき、高校生の頃から顔見知りだった「美容室きれい」のオーナーから、「うちで働きながら美容学校に通ってみたらどう?」と声をかけていただき、オーナーのお言葉に背中を押される形で、美容室に在籍しながら通信制で勉強を続ける道を選びました。

美容学校では年に2回ほどスクーリングがあり、その期間は通学して技術を学びましたが、普段はお店で実際の接客や施術を通して現場のスキルを身につけていきました。

机上の勉強だけでなく、リアルなお客様の反応を見ながら経験を積めたことは、今振り返っても大きな糧になったと思います。

美容師の資格を取得してからはどのように働かれたのですか？

2005年に美容師免許を取得し、原宿に本店を構える「株式会社スタジオビューティー」に入社しましたが、社会人としての経験を経てから美容業界に入ったため、最初の数年間は下積みとして技術を学びながら、年齢の壁を感じる場面も多かったです。

同年代の先輩美容師から指導を受ける際は、技術や知識を吸収するために必要な過程だと理解していたので、年齢差を気にすることはありませんでした。

しかし、年下の先輩から注意を受けたり、年齢について言及されたりする場面もあり、「未経験の業界に年齢を重ねてから飛び込むことは、想像以上に難しいことなんだ」と実感しました。

それでも、美容師としての道を選んだことに後悔はなく、一つひとつの学びが確実に自分の糧になっていく感覚があり、お客様の笑顔を直接見られる仕事の魅力を感じることで、...



続きはQRコードからアクセスしてください → → →